

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	1	学 校 名	下田高等学校 定時制	校 長 名	山崎 文則
------	---	-------	------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

賀茂地域における高校教育の伝統的拠点校として、知・徳・体の人間教育と地域連携による課題解決型学習を通して、将来の日本や地域を支え、導いていく人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー ＜身に付けたい力＞	カリキュラム・ポリシー ＜目指す学び＞	アドミッション・ポリシー ＜望む生徒像＞
(1) 入学時点で自分が課題としていたことを克服できる力を持つ人を育成します。 (2) 自己管理能力、他者を思いやる気持ち、協調性・協同性を身に付けた人を育成します。 (3) 社会に貢献する意欲を持ち、将来の自己の在り方を見据えて進路実現を果たせる人を育成します。	(1) 基礎・基本を重視しつつ、発展的な学習にも対応できるよう、個別最適な学習の充実を図ります。 (2) 体験活動や協同学習等を通して達成感や成功体験を積むことで、自己肯定感・自己有用感を高めます。 (3) 規範意識や人権意識を身に付けることで、社会性や公共心、自他を尊重できる心を養います。	(1) 「心機一転、定時制で頑張り抜きたい」という気持ちを持って、学び直しに取り組める人を求めます。 (2) 定時制で学ぶ者同士で助け合い、励まし合う中で「自分を高めたい」という意欲を持つ人を求めます。 (3) 自らの課題を克服するために、真剣に自分と向き合う覚悟がある人を求めます。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア すべてのに優先する安心安全な学校づくり

- (ア) 事故、トラブルのない学校づくり
- (イ) 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識の向上

イ 自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実

- (ア) 積極的な挨拶の励行
- (イ) 基礎的な生活習慣の確立
- (ウ) 自己肯定感・自己有用感の向上

ウ 多様な生徒に対応した授業の展開

- (ア) 基礎学力の定着
- (イ) 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践
- (ウ) 3修制への積極的な取り組み
- (エ) 心理的安全性に配慮した授業実践

エ 積極的な地域貢献・活性化のための開かれた学校

- (ア) 地域防災への積極的な参加と地域活性化への協力
- (イ) 教育活動の積極的広報
- (ウ) ICTを活用した学校間連携の研究

オ 個に応じた丁寧な進路指導

- (ア) 計画的なキャリア教育の展開
- (イ) 地元企業等への積極的なアピール及び連携

カ 学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進

- (ア) 教員育成指標に則した研修充実と組織力を高める研修
- (イ) 特別支援教育・人権教育の推進

キ 働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築

- (ア) 職員の積極的な休暇取得の促進
- (イ) 職場環境の充実

ク 信頼される学校づくりの推進

- (ア) コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上
- (イ) 事案に応じた計画的な準備と経費の執行

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	すべてに優先する安心安全な学校づくり	(ア) 事故、トラブルのない学校づくり	教員による登下校指導の実施、賀茂地区学校安全ネットワークの活用により、交通事故等を0にする。グッドマナー講習会を通して、生徒の交通安全意識の向上を図り、講習会満足度4段階評価平均3以上にする。	生徒
			主権者講座・人権講座の生徒満足度を4段階評価平均3以上にする。	
			いじめアンケートを各学期で実施し、いじめの認知をためらわないとともに、重大事態の発件数を0にする。	
			年間3回ケース会議等により教職員間の情報共有を行うことで重大事故を0にする。	保健
			薬学講座・ライフスキル講座の生徒満足度4段階評価平均3以上にする。	保健
			健康観察を毎日確実に実施し、夏季休業明け個別健康相談を通して生徒の心身の健康状態について把握する。	保健
		(イ) 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識の向上	地震災害を想定した防災訓練を計画的に実施する。地域の組織による防災意識を高める講座を行う。	総務
イ	自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実	(ア) 積極的な挨拶の励行	生徒会を中心に挨拶運動を年間5回実施し、自ら挨拶のできる生徒の割合を90%以上にする。	生徒
		(イ) 基礎的な生活習慣の確立	個別指導の徹底と日々の呼びかけにより、年間出席率が80%以上になるようにする。	教務
			1か月に1度生活習慣チェックの実施と保健だよりの発行を行い、生徒の自己管理に対する意識向上を図る。	保健 HR 担任
		(ウ) 自己肯定感・自己有用感の向上	生徒個々の状況を理解し、部活動加入率35%以上を達成する。	生徒
			生徒会活動を通して主体的に活動できる生徒60%以上を達成する。	
ウ	多様な生徒に対応した授業の展開	(ア) 基礎学力の定着	基礎力の向上と定着を図り、基礎力定着テストで全体平均70点以上を達成する。	教務
		(イ) 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践	教員の授業力向上を図り、生徒アンケートで授業満足度（4段階評価）に「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答える生徒の割合が80%以上にする。	教務
		(ウ) 3修制への積極的な取組み	スクーリングは年間計画通り100%実施し、テストは1月上旬までに最終回のテストを受験する。	教務
		(エ) 心理的安全性に配慮した授業実践	授業アンケートの「質問しやすい雰囲気での授業に取り組むことができる」、「授業中での発言のしやすさが確保されている」という項目で、「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答える生徒の割合が70%以上にする。	全職員

様式第 1 号

エ	積極的な地域 貢献・活性化 のための開か れた学校	(ア) 地域防災への積極的な参加と地域活性化への協力	地域の防災機関と連携し、防災講座を計画・実施して、防災知識と意識を高め、災害時に地域社会に貢献できるようにする。	総務
		(イ) 教育活動の積極的広報	X を 1 週間に 1 回以上更新し、定時制の教育活動についてアピールする。 学校説明会や公開授業週間の機会を利用して、教育活動を広く周知する。	全職員
		(ウ) ICT を活用した学校間連携の研究	「行きたい学校づくり」推進事業 (ICT 活用) における学校間連携の研究に協力していく。	管理職
オ	個に応じた丁寧な進路指導	(ア) 計画的なキャリア教育の展開	進路シラバスを充実させ、体系的なキャリア教育を行う。就業状況カードを活用し、在学中及び卒業後の就労に繋げる。	進路 HR 担任
		(イ) 地元企業等への積極的なアピール及び連携	進路研修や社会人講話などを通して、在学中から生徒の就労への意識を高める中で、卒業予定者の進路決定率が 100% になるよう指導する。また、法人会、振興会と連携し、社会人講話等の機会を設け、生徒の就労支援の充実につなげる。	進路 HR 担任
カ	学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進	(ア) 教員育成指標に則した研修充実と組織力を高める研修	年間を通し、各種研修会、講演会を 3 回実施し、教職員の資質能力の向上を図る。また、定期訪問を活用し、特別支援教育の視点からの生徒指導について理解を深める。	研修
		(イ) 特別支援教育・人権教育の推進	特別支援教育・人権教育の研修に、できるだけ多くの教職員が参加し、全職員で情報共有を図る。	全職員
キ	働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	(ア) 職員の積極的な休暇取得の促進	計画的に休暇を取得したり、定時退勤日を設けて心身のリフレッシュを図る。	管理職
		(イ) 職場環境の充実	働きやすい環境を整備し、職員の安全と衛生に配慮する。	管理職
ク	信頼される学校づくりの推進	(ア) コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上	コンプライアンス通信やコンプライアンス動画等を活用し、グループワーク等を行い、教職員の意識向上を図る。	全職員
		(イ) 事案に応じた計画的な準備と経費の執行を図る	・業務改善提案実践 3 件以上。 ・内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス 0 件。 ・複数年の課題解消 1 件以上。	事務

(記入上の留意点)

具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。